

2022.10.20 (木)
第15回例会
(通算3684回)

2022-2023 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『創り出そう身近な奉仕を 友情、愛情 そして熱意で』

第85代会長 滝越 康雄
副会長 清水 輝彦
幹事 中島 政徳
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2022-2023 年度
国際ロータリーテーマ



2022-2023 年度
R1会長 ジェニファー・ジョーンズ
第2500地区ガバナー
久木 佐知子 (旭川西 RC)

月間テーマ	経済と地域社会の発展月間
本日のプログラム	講師例会「釧路にもっとユーモアを！」(担当：プログラム委員会)
次週例会	夜間例会「クイズ 会長ってどんな人！」(担当：親睦活動委員会)

- ロータリーソング：我等の生業
- ソングリーダー：八幡 好洋君
- 会員数 104名
- ビジター なし
- ゲスト 一般社団法人ドット道東／クスろメンバー・ディレクター 須藤 か志こ様

会長の時間

滝越 康雄会長



お食事中の方は、
どうぞお続けください。

会長挨拶をさせていただきます。ロータリー事業の報告事項として、先週もご案内

しました『ポリオデー』で、来週は清水副会長の出番がごさいます。FMくしろで10月24日に2回、11時と16時30分からの放送があります。ぜひお聴きください。

私はこの1年間、例会がある木曜日が中心の生活をしております。今日は講師をお招きしての明るい話題ですので、重いテーマは避けまして、小さい話を組み合わせてみました。

今日の話は、私にとって1週間で一番大切な宝物の日である日曜日の話です。

いつから日曜日が休日になったかを歴史的に見ますと、元々は江戸時代の休みは盆と正月しかなくて、毎日が仕事の日だったそうです。ただ、生活はのんびりしていましたので、そうギスギスした生活ではなかったと推測します。

明治維新になってからは、31日の『みそか』以外は1と6の付く日が休みでした。暦でいうと、1・6・11・16・21・26日が官公庁の休日になっていまして、

『一六ドンタク』と言うそうです。ドンタクはお聞きしたことがあると思いますが、オランダ語でゾンタク(Zondag)という日曜日のことが語源だそうです。明治政府になると、欧米との行政・ビジネスでどうも

曜日がかみ合わなくなり、もちろん欧米では日曜日は教会へ行く礼拝の日です。そしてまた、太陰暦から太陽暦へ移行もあり、1876年(明治9年)になって、官公庁が土曜日の半休・いわゆる半ドンで、日曜日が休日。ここでだいたい日曜日は固定しての休みになりました。例外は、大工職人と塗装屋さんで、『雨天休み』という方々もおられたようです。

現代は、1992年(平成4年)に『行政機関の休日にする法律』で、きちんと明文化して土日が休日と。だから公式の休日はそんなに遠い昔ではないということとでございます。

皆様のご記憶にお留め置きいただければと思います。以上です。ありがとうございました。

幹事報告 中島 徳政幹事

幹事報告をさせていただきます。会長も申し上げましたが、『世界ポリオデー』として全道のFMラジオジャックがごさいます。10月24日の『FMくしろ』の他に、釧路で聴ける『AIR-G』さんと『NORTH WAVE』さんで行われますので、その時間帯のお知らせです。

NORTH WAVEは10時15分から第2510地区のガバナーが出席されます。AIR-Gは9時45分と12時30分からで、9時45分のAIR-Gには久木ガバナーが電話でご出演されます。時間がございましたら聴いていただければと思います。

第2500地区のガバナーエレクト鶴見誠一郎君から「来年度のガバナー補佐の決定のお知らせ」で、第1分区～第8分区までの名簿が来ております。第7分区については、鉦路北ロータリークラブの佐渡正幸君がなりますので、併せてお知らせします。

クラブに鉦路交響楽団の定期演奏会のポスターが届いております。こちらは、吉田潤司パストガバナーの奥様が現在事務局長として協力会の担当をされておりますので、よろしければ11月20日、コーチャンフォー鉦路文化ホールで行われますので、ご興味のある方はご参加いただきたいと思います。

以上で報告を終わります。

■本日のプログラム■ 講師例会「鉦路にもっとユーモアを！」

プログラム委員会 村上 祐二委員長

村上です。今日は、須藤か志さんを講師としてお招きをした講師例会となっております。須藤さんの略歴につきましては、テーブルにお配りしておりますので、ご一読いただければと思っております。

それでは、早速ですが、須藤さん、ご登壇の上ご講演をよろしくお願いいたします。

一般社団法人ドット道東／クスろメンバー・ディレクター 須藤 か志様



本日は、よろしく
お願いいたします。
『市民団体クスろ』
の須藤か志こと申
します。本日は『鉦
路にもっとユーモ
アを！』というタイ
トルでお話をさせて
いただければと思
います。よろしく
お願いいたします。

私について簡単に話をさせてください。鉦路市生まれ・鉦路市育ちで、いまも鉦路市に住んでいます。幣舞中学校出身で、その後、鉦路高専の電気工学科に進学して、公立はこだて未来大学という函館の大学に進学して、卒業後Uターンをして現在は会社員として鉦路で働いております。

最初から少し飛ばしますが、私はあまり鉦路が好きではありません。皆さんの前でちょっとお伝えするのは恐縮ですが、あまり鉦路が好きではないのです。

私に物心がついた時の鉦路の中心街はこのような状況でした。もしかしたらご存じの方もいるかもしれませんが、YouTubeで少し話題になった動画があります。外国の方が鉦路の街中の動画をYouTubeにアップしています。タイトルが『あっ、ダイニングシティー』という直接的過ぎるタイトルでした。でも、本当に私が小学生のころ、中学生のころ、街を歩いていると本当に鉦路は何もない街だとすごく感じながら歩きました。

少し成長をして、このような話題が分かるようになってくると、鉦路はこのような社会問題があまりにも多過ぎる。本当に社会問題の最先端の街だという印象を受けていて、鉦路は本当に暗い話題ばかりで嫌な街だと10代のころはそればかり思っていました。そんな私は学生の時、「王様のランチに出ているあのお店行けたらいいのに」とか「終電だから帰るね、と言ってみよう」とか「ananに載っているお洒落なカフェに行きたい」とか、そのようなことばかり思っていました。

これは『クスろ』の他のメンバーも思っていて、それぞれは湖陵高校や江南高校が出身ですけれども、それぞれがそのような思いを胸に東京や札幌へ飛び出して行きました。札幌・東京でこのような生活をするわけです。人もビルもたくさんで、息も詰まるような社会人生活を『クスろ』のメンバーそれぞれが送ってきました。

「鉦路だったらこのようにたくさん信号待ちをしなくても良いのに」とか「鉦路だったら食べ物も海鮮も野菜も美味しいし、お米もたくさん食べられるし、なぜ私はこのような所で働いているのだろう」、そのように考えるメンバーがすごく多くなっていきました。そこで気づいたことです。鉦路に感じていた不便さや物足りなさ、裏返してみると個性や特徴と言えるのではないかと。メンバーそれぞれが社会人生活を経て気づき始めました。そこで「鉦路にもっとユーモアを！」というキャッチコピーで、私たちは『市民団体クスろ』を結成しました。いままで鉦路に感じていた物足りなさや不便さをユーモアで面白味に変えていこう、と活動を始めました。

メンバーはこのような感じで、いまは増えて10人ぐらいで活動をしています。それぞれは鉦路にゆかりがありま
すけれども、出身も居住地もバラバラです。例えば、茨城県の出身の人が転勤で鉦路へ来て、クスろに入ってくれたメンバーもいれば、私みたいに鉦路出身・鉦路在住のメンバーもいます。高校卒業後に鉦路を出て東京で就職をしてそのまま東



京で暮らしていて、いまはリモートワークができますので、オンラインでクスろを続けているメンバーもいます。

クスろは、いままでいろいろなイベントをやらせてもらい、プロジェクトを立ち上げてきました。例えば、若者の投票率が低いことは日本の大きな課題だと思います。それを、ユーモアで少しいじってみると、真ん中の画像にタイトルが「サーセンキョ」というイラストがありますが、「今まで行ってなくてサーセン（すみません）！」という気持ちと、「サー、センキョに行こう！」という気持ちを込めて「サーセンキョ」というイベントを釧路市役所の前庭で若者の投票率を上げようといきました。

クスろの活動は、主に3つあります。「釧路の魅力的な人を多くの人に伝える」ことが1つ目の活動です。もう1つ、「魅力的な人に会える場をつくる」活動もあって、最後には「クスッとできるお土産を作る」活動もご紹介したいと思います。

まず、伝える活動です。私たちは『クスろ港』という釧路の魅力的な人をご紹介するWEBサイトを作っております。釧路の魅力を作っている人たちのことを『クスろ人』と定義をさせていただき、その人がなぜ



釧路のこのような活動に関わるようになったのか、そもそもの生立ちなどを深くインタビューして記事化させてもらっています。今まで

に20名ほどに取材をさせていただき、観光だけではなく、地域のタクシードライバーさん、先生、市役所職員などに大きく釧路の魅力を捉えて取材をさせていただいています。

取材をした内容をWEBの配信だけですと、ご年配の方などからは「読めないよ」というお声をいただいたので、フリーペーパーも一時期は作っておりました。こちらは「1人が1冊」という形で釧路のいろいろな所に置かせていただいています。いまも置いてあるのでもし良かったらぜひ手に取って見ていただけたらと思います。

次に、釧路の魅力的な人をWEBサイトで紹介をしていたら、「この人たちに会いたい」という声をいただくことが増えました。「だったら、その人たちに会えるようにしよう」ということで『「ひと」めぐりTOUR』を企画しました。

こちらは厚岸町の昆布漁師さんで、私たちは「トコジジ」と呼んでいます。トコジジの所にみんなで行って、昆布漁のお手伝いをした時の写真です。参加者は東京や札幌から少人数ではありますが「釧路のことを本当に好きになりたい」とか「釧路へ移住したい」と、釧

路への思いが特に強い方々が集まる場になりました。先ほどの画像のような釧路市内でのイベントも行っております。「サーセンキョ」や釧路市米町にある厳島神社さんで、自分が日々感じているモヤモヤや悩みなどを「初めまして」の人どうしで語り合ったり、釧路の魅力的な人に会えたり、釧路のことを思っている人たちに会える『語り場ジン（人）ジャー』というイベントを行ってきました。

次は、本日の本題です。「クスッとできるお土産を作る」についての活動を最近、強く行っていますのでご紹介できたらと思います。

お土産を作る活動をなぜ始めたかです。釧路は本当に魅力的なお土産がたくさんありますが、「お菓子や海鮮が充実し過ぎていて、正直に言うと少しマンネリ化してしまっている」という仮説がありました。それから、デザインや食べ物の好みは流行すたりが激しくて、2018年ころにお土産を考え始めたのですが、そのころ、若者が気軽に買えて、しかも友だちに渡せるような、かわいい・面白いお土産がなかなかありませんでした。私たち自身、札幌や東京から来てくれた友だちにお土産を渡す時に「どのようなお土産を渡せば良いのだろう」といつも悪戦苦闘をしていたので、「だったら、自分たちで作っちゃおう」とお土産作りを始めました。

できた物がこちらのキーホルダーです。こちらは釧路のMOOさんや空港などいろいろな所に置いていただいて、もしかしたら「知っています」と言ってくださる方もいると思います。こちらの開発秘話というか、このキーホルダーについてのお話しができたらと思っています。

いまでは有名な手法ですけれども、インターネット上で開発資金を集めてから物作りを行うというクラウドファンディングを使ってキーホルダーの開発資金を集めました。正直、どれくらいの人たちが私たちの思いに賛同してくれるか分らなかった状態でした。右側にありますが「パトロン数」、これは支援をしてくださった方の数です。171人の方がご支援してくださいました。目標金額が30万円に対して67万円以上が集まり、すごく嬉しかったことを覚えています。しかも、30万円が2日足らずで集まったのです。そこからさらに67万円という数字に行きました。本当に凄いスピードでこのキーホルダーの企画に賛同してくれた方がいたことが考えるきっかけになりました。いただいたコメントを一部ご紹介したいと思います。「ダサ感と脱力感、釧路人が分かるネタが最高です」「ふざけている感じが好きです」。結構、グッとくるメッセージもあり「大学進学に伴い釧路を離れた者です。釧路はやっぱり高校を卒業して離れる方が非常に多いと思います。高校を卒業したら戻って来ないで、ずっと東京・札幌・大阪でお仕事を続けて、そちらで家族

を持って、もう釧路にUターンすることなど考えられない人が結構多いと思います。けれども、何となく自分に心残りとして『釧路に帰れたら』とか、『本当は釧路みたいな所にいたい』と思っている人は多いと思います。でも、今すぐには生活を変えられないけれども、このクラウドファンディングをサポートすることによって釧路に貢献できるようになったことはすごく嬉しい」と言ってくださって、このような形でクラウドファンディング、インターネット上で世界中のどこにいても釧路のことを応援できるという手法をとれたことはすごく良かったと感じています。

今日お持ちしていますけれど、『クスろのおふざけキーホルダー』というタイトルで製作・販売しております。「なぜ、受けたのだろう」とメンバーで考えてみました。3つあると考えています。1つは、コメントにもありました「絶妙なダサさがある」と思います。ゆるいイラストをモチーフにしています。

昔、釧路駅にあった「STATION DINER 946」という看板のことを皆さんはどう思われていたでしょうか。私はダサイと当時は思っていましたけれども。逆に今は、『いいのではないか』みたいなことを思い始めて、それをキーホルダーにしたり、私が今日被っている帽子にしたりしました。

「なにか、ダサかったよね」という話や「学祭のとき、失敗したよね」みたいな少し恥ずかしい話などで人と盛り上がりませんか。同窓会などで盛り上がるネタは、感動的な思い出より、ちょっと誰かが失敗した話やちょっとダサくて恥ずかしい話の方が盛り上がると思います。そこにちょっと着目して、ダサイからつながる共感を話のネタとしてリバイバルしたことが1つあると思っています。

もう1つが、王道を攻め過ぎないモチーフ選びです。釧路といえば、『まりも』や『タンチョウ』がすごくモチーフに使われやすいけれども、まりもと言ったら『まりもっこり』に勝てるキャラは多分出せないと思います。ですから、釧路の人だけが「ニヤッ」としてしまふモチーフを選ぶことで、釧路に対しての想いが強過ぎる人や、少しニッチな層にも刺さるようにと、思ってモチーフ選びを工夫しました。

あとは最後に、お土産としてあげやすいところでキーホルダーが王道です。Tシャツはちょっとお値段が張るし、身に付ける物としては大き過ぎると思ったときに、身に付けられて存在感があるちょっとした物という感じで、キーホルダーがすごくウケたと思っています。

いま6種類作っていて、このようなラインナップになっています。モチーフ選びはすごく工夫をしています。例えば、食べ物や動物に寄らないようにして、シンボルアクティビティ・食べ物・生き物と3つのカテゴリーに分けました。あとは、釧路の王道を入れ

込むことは大事だと思います。この STATION DINER 946 の帽子を被っている男の子は、いま釧路に観光の方が来ても、今はもうないので多分、分からないと思いますけれども、釧路の人なら分かるよね、と。あと、一番人気は左から3番目のタンチョウで、「釧路のお土産」と一発で分かるし、タンチョウというモチーフが釧路らしいと思って、釧路のことを知らない人から釧路のことを知り過ぎていて人まで手に取ってもらえるように、6種類のうち1つは刺さるだろうという感じで作りました。

本日、お話ししたいことは、このキーホルダーです。おそばの『無量寿（むりょうじゅ）』を皆さんご存じでしょうか。ここ2年ぐらいで釧路のおそば界の中で、大スター的存在にのし上がったメニューです。まず「釧路のそば」と言ったら緑色ですよ。もちろん白いおそばもありますけれども7割～8割のおそば屋さんが緑色のおそばではないかと思っています。その緑色のおそばで有名なメニューは「そば寿司」です。私も15年ぐらい前にANAの機内誌『翼の王国』で竹老園さん



のそば寿司がドンと載っていたことを覚えていて、やっぱりそば寿司だと思った記憶があります。そば寿司が一番有名ということはもう分

かっています。クスろが一番好きなものは、このそば、無量寿です。

無量寿そばのことをご存じない方に説明をしますと、麺は普通に緑色です。丼の中に入っていて、そこにごま油がかけられています。上にきざみのりと卵黄とわさびとネギを添えると無量寿そばになります。このごま油の商品名が『無量寿』という名前です。

これが本当に大好きで、私は高専生だったので大楽毛の『まるみ江戸東』さんで無量寿をメチャクチャ食べていました。ある時、友だちがいる前で無量寿を頼んだら「何それ」とメチャクチャびっくりされて、そのころ無量寿は全然知られていないのだと思って、でも、東家系列のおそば屋さんは無量寿がある所が多いのです。

これって、新しい釧路の価値や魅力になるのではないかってクスろの人に紹介したらみんなハマってくれて、それからもう「クスろの好きなおそば」といえば無量寿となりました。

この無量寿をどうしてもキーホルダーにしたいくて、竹老園の伊藤社長に直談判に行きました。デザイン案や私たちの無量寿愛などもメチャクチャにプレゼンしましたが、伊藤社長は「そば寿司なら分かるけれど、無量寿は無理じゃないの」とずっとおっしゃっていました。でも、伊藤社長はお優しいので最終的には

「良いですよ。無量寿を使ってください」と言ってくださいました。この時、伊藤社長の薦めに負けずに無量寿を選んだことが、私たちの成功のひとつだと思っています。

この無量寿キーホルダーをきっかけに「無量寿を食べに行った」という人がメチャメチャ増えました。「竹老園さんへ行って無量寿を食べてきました」と言ってキーホルダーと一緒に無量寿を撮影してくれたり、無量寿以外のキーホルダーでも「えっ、それクスろのキーホルダーですよ。私、釧路へ行ったことがあります」や「私、釧路出身です」みたいな感じでメチャクチャ話が盛り上がる現象が起きました。後々、伊藤社長に聞いたら、無量寿のキーホルダーが出てから竹老園東家総本店さんでの無量寿の売り上げが1.5倍ぐらいになったらしく、やったと思いました。

これって、どういうことかと考えていた時に、キーホルダーによる街の再編集だと私たちは考えています。釧路って、緑のおそばだけではなく、麺類がそもそも有名な街ですよ。その中で、無量寿はずっとあったメニューだったのです。元々は伊藤社長のお爺さまが考えられたメニューだったので、少なくとも30年ぐらはずっとあるメニューのはずなのに『スパカツ』や『釧路ラーメン』に知名度で負けていたわけです。社長に「無量寿でいいの？」と言われながらも無量寿のキーホルダーを作らせていただき、その結果は『スロウ』という雑誌で、今まではこの左ページの大きい所に載っていたそば寿司が無量寿に入れ替わる現象が起きたり、某コンビニで無量寿そばが発売されたり、本当にいろいろなムーブメントが起きたと感じています。

でもこのキーホルダーは無量寿だけではなく、他の物はすべてが元々から釧路にあるものです。私たちが新しいものを作ったわけでもなく、新しいものを無理やりいい物にしようと思ったわけでもなく、元々あって元々良かったけれども、まだまだ発見されていないことが釧路にはたくさんあることをこのキーホルダーのプロジェクトを通して感じました。

このSTATION DINER 946の看板も元々釧路にありました。キーホルダーを作った後に、帽子のワッペンも群馬のすごく有名なワッペン屋さんで気合いを入れて作りました。けれど、これをキーホルダーにしようと思う人はいまままでいなかったのです。どこにもいなくて、でも、これをちょっと斜めから見てあげれば、いまままで私たちが「ダサイ」「恥ずかしい」と思っていたものも面白くなる。誰かと誰かをつなぐコミュニケーションの道具になるのではないかとキーホルダー作りを通して感じたところです。

私たちの現在の活動です。この「斜めから見る」というところに私たちはすごく価値を感じていて、釧路のロングヒットフードのアーカイブ作業をいま行って

います。もし、お時間がよろしければぜひYouTubeで「釧路フッフッフード」と検索していただくと、この動画が出ます。スパカツや釧路ラーメンなどは非常に有名です。でも、釧路の代名詞と言えるようなものではなく、ずっと釧路にあったけれどもまだあまり世に見つかっていないものを紹介する活動を行っています。

例えば、『かしわぬき』。釧路の人以外で「かしわぬき」といって食べている人をあまり聞きませんので、かしわぬきの取材に行きました。真ん中は『ちらしスパゲッティ』です。皆さんは釧路市の小学校に通っていたら給食のメニューで食べたことがある人はいるはず。このちらしスパゲッティは釧路市給食のオリジナルなのです。当時の釧路市給食に携わっていた職員さんにインタビューに行きました。こがねちゃん弁当



の双葉店さんだけで販売されている『とりめん』という総菜をご存じですか。いや、そうなのですよ、本当に皆さん。

釧路で長く活動されていると思いますけれども、多分、皆さんでも知らないことが本当にたくさんあります。それって、メチャクチャ釧路の価値ですよ。まだ釧路の中で見つけられていない価値ってすごく多くあって、私たちはこのような食べ物や情報をこれからも発見・発信し続けたいと思っています。

今日は、私たちの活動について聞いていただきましてありがとうございました。SNSもやっていますので、もしよろしければぜひフォローをしていただければと思います。

本日は、ありがとうございました。

会長謝辞 滝越 康雄会長

講演をどうもありがとうございました。最初から何かの話の材料にと思ってノートしていましたが、ノートしきれません。範囲が広くて、人口減少から無量寿、いまのスパゲッティまでといたら話をまとめようがないのです。今日は新しい人の感覚というもの、いいものを見つけたと思っています。

それはそうと、釧路を盛り上げるという熱意でされているようです。私ども年配者も年配者なりにそういう感覚を持っています。私も歴史が好きなものから、先ほど竹老園さんの名前が出ましたが、竹老園さんの部屋にすごい額縁があります。書いている署名者が李鴻章（り・こうしょう）といっています。この人は日清戦争終戦の下関会議で伊藤博文とやりあった人、全権なのです。その下で、みんなが分からずに天ぷらそばを一生懸命食べています。先日、行ったらきちん

と額縁に掛けていたので、あれも非常に貴重品でございます。

もう1つ、私はいずれ例会で喋ろうと思っていたトップシークレットがあります。井沢元彦の「逆説の日本史」で、釧路が1ページだけ出てきます。このお話しをします。もったいぶっている訳ではありません。その時の材料にいたします。

いずれにしても、先ほどの「ダサイ」という言葉ですけれども、逆にダサイことがオリジナルかと思って。私も釧路のことを腐すことがありますけれども自虐的になることは不必要ではないかなと思って。

最後ですけれども。18日の道新さんの電子版で見ましたが、『ちょっと暮らし』で釧路が11年連続の全

道1位と書いてあります。人口が流出する割には、入ってくるちょっと暮らしの人が膨大に多いのです。釧路市が1,362人。上川管内東川町が91人。人気があるのになぜ人は出て行くのか、ここがキーポイントかと。やっぱり働くところがないのではないかと。観光客が来るのは良いのだけれど、さっと帰ってしまう。住民票を置いてくれば良いのだけれど、そのような街にしていればと思います。

今日は、若い人の感覚を聞かせてもらいました。本当にありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■後藤 公貴君 ついに警察の方と道新に出てしまいました。

今年度累計 1000,000円